

受 検 番 号	氏 名

令和 3 年度

1 級建築施工管理技術検定

第一次検定問題（午前の部）

令和 3 年 6 月 13 日(日)

[注 意 事 項]

1. ページ数は、表紙を入れて 18 ページです。
2. 試験時間は、10 時 15 分から 12 時 45 分です。
3. 問題の解答の仕方は、次によつてください。
 - イ. [No. 1]～[No. 15]までの 15 問題のうちから、12 問題を選択し、解答してください。
 - ロ. [No. 16]～[No. 20]までの 5 問題は、全問題を解答してください。
 - ハ. [No. 21]～[No. 30]までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
 - ニ. [No. 31]～[No. 39]までの 9 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。
 - ホ. [No. 40]～[No. 44]までの 5 問題は、全問題を解答してください。
4. 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
5. 問題は、四肢一択です。正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
6. 解答の記入にあたっては、次によつてください。
 - イ. 解答は、別の解答用紙に、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。
 - ロ. 解答は、選んだ番号を右のマーク例に従つて塗りつぶしてください。
 - ハ. マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
7. 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
8. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
9. 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方場合があります。
10. この問題用紙は、午前の部の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。途中退席する場合は、持ち帰りできません。

マークの塗りつぶし例 ●

※ 問題番号 [No. 1]～[No. 15]までの15問題のうちから、12問題を選択し、解答してください。

[No. 1] 換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 風圧力による自然換気の場合、他の条件が同じであれば、換気量は風上側と風下側の風圧係数の差の平方根に比例する。
2. 室内外の温度差による自然換気で、上下に大きさの異なる開口部を用いる場合、中性帯の位置は、開口部の大きい方に近づく。
3. 中央管理方式の空気調和設備を設ける場合、室内空気の二酸化炭素の濃度は、100 ppm以下となるようにする。
4. 中央管理方式の空気調和設備を設ける場合、室内空気の浮遊粉塵の量は、0.15 mg/m³以下となるようにする。

[No. 2] 採光及び照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 演色性とは、照明光による物体色の見え方についての光源の性質をいう。
2. 光束とは、単位波長当たりの放射束を標準比視感度で重みづけした量をいう。
3. 形状と面積が同じ側窓は、その位置を高くしても、日光による室内の照度分布の均斉度は変わらない。
4. 設計用全天空照度は、快晴の青空のときが薄曇りのときよりも小さな値となる。

[No. 3] 吸音及び遮音に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. グラスウールなど多孔質の吸音材の吸音率は、一般に低音域より高音域の方が大きい。
2. コンクリート間仕切壁の音響透過損失は、一般に低音域より高音域の方が大きい。
3. 床衝撃音レベルの遮音等級を表すL値は、その値が大きいほど遮音性能が高い。
4. 室間音圧レベル差の遮音等級を表すD値は、その値が大きいほど遮音性能が高い。

[No. 4] 積層ゴムを用いた免震構造の建築物に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 免震構造とした建築物は、免震構造としない場合に比べ、固有周期が短くなる。
2. 免震部材の配置を調整し、上部構造の重心と免震層の剛心を合わせることで、ねじれ応答を低減できる。
3. 免震層を中間階に設置する場合、火災に対して積層ゴムを保護する必要がある。
4. 免震構造は、建築物を鉛直方向に支える機構、水平方向に復元力を発揮する機構及び建築物に作用するエネルギーを吸収する機構から構成される。

[No. 5] 鉄筋コンクリート構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 柱の主筋はD13以上の異形鉄筋とし、その断面積の和は、柱のコンクリート全断面積の0.8%以上とする。
2. 柱のせん断補強筋の間隔は、柱の上下端から柱の最大径の1.5倍又は最小径の2倍のいずれか大きい方の範囲内を150mm以下とする。
3. 梁の主筋はD13以上の異形鉄筋とし、その配置は、特別な場合を除き2段以下とする。
4. 梁のせん断補強筋にD10の異形鉄筋を用いる場合、その間隔は梁せいの $\frac{1}{2}$ 以下、かつ、250mm以下とする。

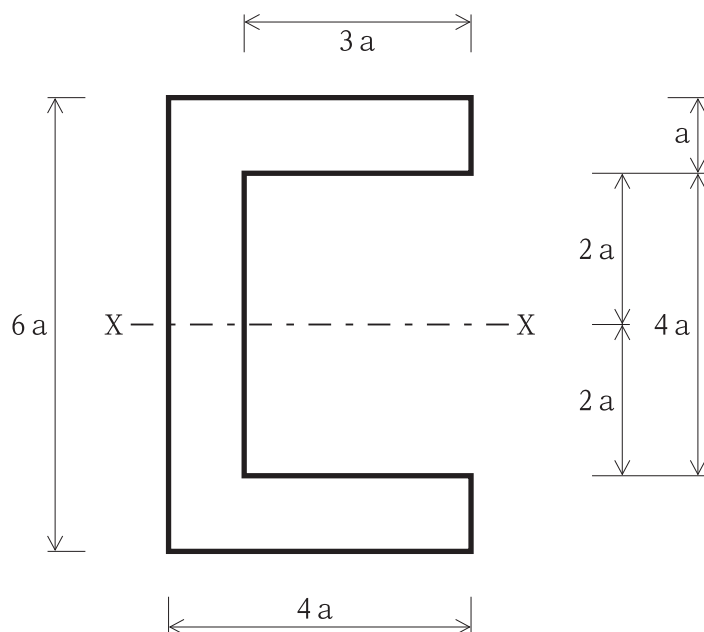
[No. 6] 鉄骨構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. H形鋼は、フランジ及びウェブの幅厚比が大きくなると局部座屈を生じやすい。
2. 部材の引張力によってボルト孔周辺に生じる応力集中の度合は、普通ボルト接合より高力ボルト摩擦接合の方が大きい。
3. シヤコネクタでコンクリートスラブと結合された鋼製梁は、上端圧縮となる曲げ応力に対して横座屈が生じにくい。
4. H形鋼における、局部座屈の影響を考慮しなくてもよい幅厚比については、柱のウェブプレートより梁のウェブプレートの方が大きい。

[No. 7] 杭基礎に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

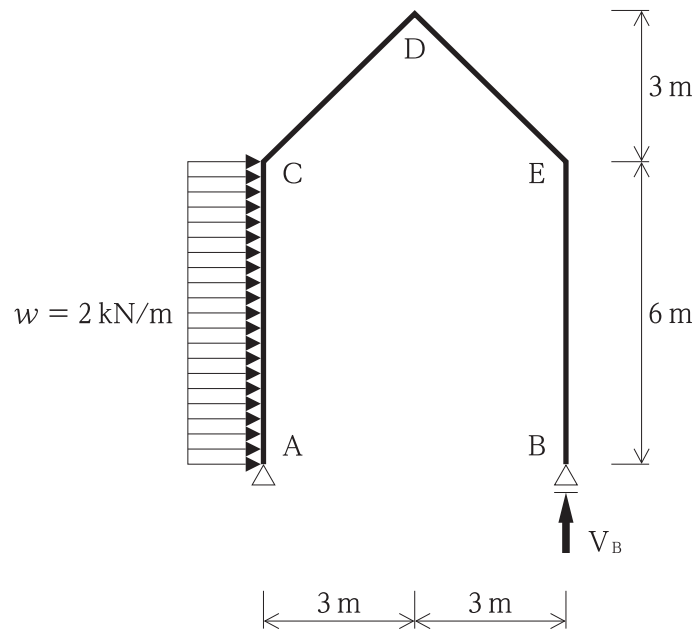
1. 杭の先端の地盤の許容応力度は、セメントミルク工法による埋込み杭の場合より、アースドリル工法による場所打ちコンクリート杭の方が大きい。
2. 杭の極限鉛直支持力は、極限先端支持力と極限周面摩擦力との和で表す。
3. 地盤から求める杭の引抜き抵抗力に杭の自重を加える場合、地下水位以下の部分の浮力を考慮する。
4. 杭の周辺地盤に沈下が生じたときに杭に作用する負の摩擦力は、一般に摩擦杭の場合より支持杭の方が大きい。

[No. 8] 図に示す断面の X-X 軸に対する断面二次モーメントの値として、正しいものはどれか。



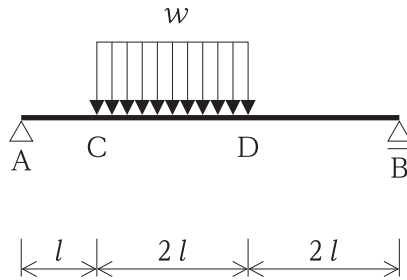
1. $56 a^3$
2. $56 a^4$
3. $72 a^3$
4. $72 a^4$

[No. 9] 図に示す静定の山形ラーメン架構のAC間に等分布荷重 w が作用したとき、支点Bに生じる鉛直反力 V_B と、点Dに生じる曲げモーメント M_D の値の大きさの組合せとして、正しいものはどれか。

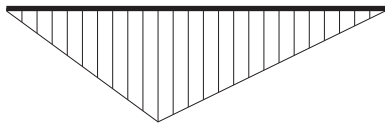


1. $V_B = 6 \text{ kN}$, $M_D = 0 \text{ kN} \cdot \text{m}$
2. $V_B = 6 \text{ kN}$, $M_D = 18 \text{ kN} \cdot \text{m}$
3. $V_B = 12 \text{ kN}$, $M_D = 0 \text{ kN} \cdot \text{m}$
4. $V_B = 12 \text{ kN}$, $M_D = 18 \text{ kN} \cdot \text{m}$

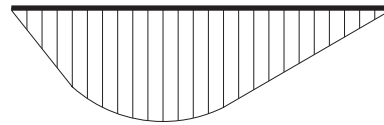
- [No. 10] 図に示す単純梁 AB において、CD 間に等分布荷重 w が作用したときの曲げモーメント図として、正しいものはどれか。
- ただし、曲げモーメントは、材の引張側に描くものとする。



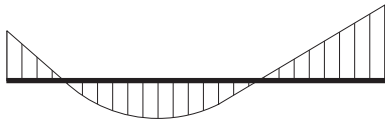
1.



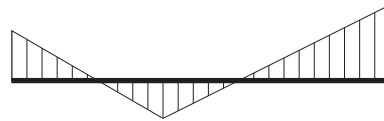
2.



3.



4.



- [No. 11] 金属材料に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

- 黄銅（真ちゅう）は、銅と亜鉛の合金であり、亜鉛が 30 ~ 40 % のものである。
- 鉛は、鋼材に比べ熱伝導率が低く、線膨張係数は大きい。
- ステンレス鋼の SUS 430 は、SUS 304 に比べ磁性が弱い。
- アルミニウムは、鋼材に比べ密度及びヤング係数が約 $\frac{1}{3}$ である。

[No. 12] 石材に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 花崗岩は、耐摩耗性、耐久性に優れるが、耐火性に劣る。
2. 安山岩は、光沢があり美観性に優れるが、耐久性、耐火性に劣る。
3. 砂岩は、耐火性に優れるが、吸水率の高いものは耐凍害性に劣る。
4. 凝灰岩は、加工性に優れるが、強度、耐久性に劣る。

[No. 13] 日本産業規格 (JIS) のドアセットに規定されている性能項目に関する記述として、不適当なものはどれか。

1. スライディングドアセットでは、「鉛直荷重強さ」が規定されている。
2. スライディングドアセットでは、「耐風圧性」が規定されている。
3. スイングドアセットでは、「耐衝撃性」が規定されている。
4. スイングドアセットでは、「開閉力」が規定されている。

[No. 14] アスファルト防水材料に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. エマルジョンタイプのアスファルトプライマーは、アスファルトを水中に乳化分散させたものである。
2. 砂付ストレッチルーフィング 800 の数値 800 は、製品の抗張積の呼びを表している。
3. 防水工事用アスファルトは、フラースゼい化点の温度が低いものほど低温特性のよいアスファルトである。
4. アスファルトルーフィング 1500 の数値 1500 は、製品の単位面積当たりのアスファルト含浸量を表している。

[No. 15] 塗料に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. つや有合成樹脂エマルジョンペイントは、水分の蒸発とともに樹脂粒子が融着して塗膜を形成する。
2. アクリル樹脂系非水分散形塗料は、溶剤の蒸発とともに樹脂粒子が融着して塗膜を形成する。
3. クリヤラッカーは、自然乾燥で長時間かけて塗膜を形成する。
4. 合成樹脂調合ペイントは、溶剤の蒸発とともに油分の酸化重合が進み、乾燥硬化して塗膜を形成する。

※ 問題番号[No. 16]～[No. 20]までの5問題は、全問題を解答してください。

[No. 16] 測量に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 間接水準測量は、傾斜角や斜距離などを読み取り、計算によって高低差を求める方法である。
2. GNSS測量は、複数の人工衛星から受信機への電波信号の到達時間差を測定して位置を求める方法である。
3. 平板測量は、アリダード、磁針箱などで測定した結果を、平板上で直接作図していく方法である。
4. スタジア測量は、レベルと標尺によって2点間の距離を正確に測定する方法である。

[No. 17] 電気設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 電圧の種別における低圧とは、交流の場合600V以下のものをいう。
2. 電圧の種別における高圧とは、直流の場合750Vを超え、7,000Vまでのものをいう。
3. 大型の動力機器が多数使用される場合の配電方式には、単相2線式100Vが多く用いられる。
4. 特別高圧受電を行うような大規模なビルなどの配電方式には、三相4線式240V/415Vが多く用いられる。

[No. 18] 給水設備の給水方式に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 高置水槽方式は、一度受水槽に貯留した水をポンプで建物高所の高置水槽に揚水し、高置水槽からは重力によって各所に給水する方式である。
2. 圧力水槽方式は、受水槽の水をポンプで圧力水槽に送水し、圧力水槽内の空気を加圧して、その圧力によって各所に給水する方式である。
3. ポンプ直送方式は、水道本管から分岐した水道引込み管にポンプを直結し、各所に給水する方式である。
4. 水道直結直圧方式は、水道本管から分岐した水道引込み管より直接各所に給水する方式である。

[No. 19] 建築物に設ける昇降設備に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

ただし、特殊な構造及び使用形態のものを除くものとする。

1. 乗用エレベーターには、1人当たりの体重を65 kgとして計算した最大定員を明示した標識を掲示する。
2. 乗用エレベーターの昇降路の出入口の床先とかごの床先との水平距離は、4 cm以下とする。
3. エスカレーターの階段と階段の隙間は、原則として5 mm以下とする。
4. エスカレーターの勾配が8°を超え30°以下の階段の定格速度は、毎分50 mとする。

[No. 20] 請負契約に関する記述として、「公共工事標準請負契約約款」上、誤っているものはどれか。

1. 発注者又は受注者は、工期内で請負契約締結の日から12月を経過した後に賃金水準又は物価水準の変動により請負代金額が不適当となったと認めたときは、相手方に対して請負代金額の変更を請求することができる。
2. 受注者は、発注者が設計図書を変更したために請負代金額が $\frac{1}{2}$ 以上減少したときは、契約を解除することができる。
3. 工期の変更については、発注者と受注者が協議して定める。ただし、あらかじめ定めた期間内に協議が整わない場合には、発注者が定め、受注者に通知する。
4. 発注者は、工事の完成を確認するために必要があると認められるときは、その理由を受注者に通知して、工事目的物を最小限度破壊して検査することができる。

※ 問題番号[No. 21]～[No. 30]までの 10 問題のうちから、7 問題を選択し、解答してください。

[No. 21] 乗入れ構台及び荷受け構台の計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. クラムシェルが作業する乗入れ構台の幅は、ダンプトラック通過時にクラムシェルが旋回して対応する計画とし、8mとした。
2. 乗入れ構台の高さは、大引下端が床スラブ上端より30cm上になるようにした。
3. 荷受け構台への積載荷重の偏りは、構台全スパンの60%にわたって荷重が分布するものとした。
4. 荷受け構台の作業荷重は、自重と積載荷重の合計の5%とした。

[No. 22] 地盤調査及び土質試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 常時微動測定により、地盤の卓越周期を推定することができる。
2. 圧密試験により、砂質土の沈下特性を求めることができる。
3. 電気検層（比抵抗検層）により、ボーリング孔近傍の地層の変化を調査することができる。
4. 三軸圧縮試験により、粘性土のせん断強度を求めることができる。

[No. 23] 既製コンクリート杭の施工に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 砂質地盤における中掘り工法の場合、先掘り長さを杭径よりも大きくする。
2. 現場溶接継手を設ける場合、原則としてアーク溶接とする。
3. 現場溶接継手を設ける場合、許容できるルート間隔を4mm以下とする。
4. PHC杭の頭部を切断した場合、切断面から350mm程度まではプレストレスが減少しているため、補強を行う必要がある。

[No. 24] 鉄筋のガス圧接に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. SD345のD29を手動ガス圧接で接合するために必要となる資格は、日本産業規格(JIS)に基づく技能資格1種である。
2. 径の異なる鉄筋のガス圧接部のふくらみの直径は、細い方の径の1.4倍以上とする。
3. SD490の圧接に用いる加圧器は、上限圧及び下限圧を設定できる機能を有するものとする。
4. 圧接継手において考慮する鉄筋の長さ方向の縮み量は、鉄筋径の1.0～1.5倍である。

[No. 25] コンクリートの調 合に関する記 述 として、最 も不適 当なものはどれか。

1. AE 剤，AE 減水剤又は高性能 AE 減水剤を用いる普通コンクリートについては、調 合を定める場合の空気 量 を 4.5 % とする。
2. 構造体 強 度補正値は、セメントの種類及びコンクリートの打込みから材齢 28 日までの期間の予想平均気温の範囲に応じて定める。
3. コンクリートの 調 合管理 強 度は、品質基 準 強 度に構造体 強 度補正値を加えたものである。
4. 単位セメント 量 が過 小のコンクリートは、水密性、耐 久 性が低下するが、ワーカビリティはよくなる。

[No. 26] コンクリートの運搬、打込み及び締固めに関する記 述 として、最 も不適 当なものはどれか。

1. 外気温が 25℃ を超えていたため、練混ぜ開始から打込み 終 了 までの時間を 90 分以内とした。
2. コンクリートの圧送開始前に圧送するモルタルは、型枠内に打ち込まないが、富 調 合のものとした。
3. コンクリート内部振動機（棒形振動機）による締固めにおいて、加振時間を 1 箇所当たり 60 秒 程度とした。
4. 同一区画のコンクリート打込み時における打重ねは、先に打ち込まれたコンクリートの再振動可能時間以内に行 った。

[No. 27] 鉄骨の溶接に関する記 述 として、最 も不適 当なものはどれか。

1. 溶接部の 表 面割れは、割れの範囲を確認したうえで、その 両 端から 50 mm 以上 溶接部を研り取り、補 修 溶接した。
2. 完全溶込み溶接の突合せ継手における余盛りの高さが 3 mm であったため、グラインダ仕上げを行 わなかった。
3. 一般に自動溶接と呼ばれているサブマージーク溶接を行 うに当たり、溶接 中 の 状 況 判断とその対応はオペレータが行 った。
4. 溶接作 業 場所の気温が－ 5℃ を下回っていたため、溶接部より 100 mm の範囲の母材部分を加熱して作 業 を行 った。

[No. 28] 鉄骨の建方に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 架構の倒壊防止用に使用するワイヤロープは、建入れ直し用に兼用した。
2. 建方精度の測定に当たっては、日照による温度の影響を考慮した。
3. 梁のフランジを溶接接合、ウェブを高力ボルト接合とする工事現場での混用接合は、原則として高力ボルトを先に締め付け、その後溶接を行った。
4. 柱の溶接継手のエレクトロシールドピースに使用する仮ボルトは、普通ボルトを使用し、全数締め付けた。

[No. 29] 木造建築物に用いる大断面集成材に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 材長 4 m の柱材の加工長さは、許容誤差を ± 3 mm とした。
2. 集成材にあけるドリフトピンの下孔径は、ドリフトピンの公称軸径に 2 mm を加えたものとした。
3. 集成材にあける標準的なボルト孔の心ずれは、許容誤差を ± 2 mm とした。
4. 接合金物にあけるボルト孔の大きさは、ねじの呼びが M 16 未満の場合は公称軸径に 1 mm を、M 16 以上の場合は 1.5 mm を加えたものとした。

[No. 30] 建設機械に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 建設用リフトの定格速度とは、搬器に積載荷重に相当する荷重の荷をのせて上昇させる場合の最高速度をいう。
2. 油圧式トラッククレーンのつり上げ荷重とは、アウトリガーを最大限に張り出し、ジブ長さを最短にし、ジブの傾斜角を最大にした場合のつり上げることができる最大の荷重を示す。
3. 最大混合容量 4.5 m^3 のトラックアジテータの最大積載時の総質量は、約 20 t である。
4. ロングスパン工事用エレベーターは、搬器の傾きが $\frac{1}{8}$ の勾配を超えた場合、動力を自動的に遮断する装置を設ける。

※ 問題番号[No. 31]～[No. 39]までの9問題のうちから、7問題を選択し、解答してください。

[No. 31] ウレタンゴム系塗膜防水に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 絶縁工法において、立上り部の補強布は、平場部の通気緩衝シートの上に100 mm張り掛けて防水材を塗布した。
2. 平場部の防水材の総使用量は、硬化物密度が 1.0 Mg/m^3 だったため、 3.0 kg/m^2 とした。
3. コンクリートの打継ぎ箇所は、U字形に斫り、シーリング材を充填した上、幅100 mmの補強布を用いて補強塗りを行った。
4. 絶縁工法において、防水層の下地からの水蒸気を排出するための脱気装置は、 200 m^2 に1箇所の割合で設置した。

[No. 32] 乾式工法による外壁の張り石工に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 石材の形状は正方形に近い矩形とし、その大きさは石材1枚の面積が 0.8 m^2 以下とした。
2. 下地のコンクリート面の寸法精度は、 $\pm 10 \text{ mm}$ 以内となるようにした。
3. 厚さ30 mm、大きさ500 mm角の石材のだば孔の端あき寸法は、60 mmとした。
4. 石材間の目地は、幅を10 mmとしてシーリング材を充填した。

[No. 33] 金属製折板葺き屋根工に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. タイトフレームの割付けは、両端部の納まりが同一となるように建物の桁行き方向の中心から行い、墨出しを通りよく行った。
2. タイトフレームの受梁が大梁で切れる部分の段差には、タイトフレームの板厚と同厚の部材を添え材として用いた。
3. 水上部分の折板と壁との取合い部に設ける雨押えは、壁際の立上りを150 mmとし、雨押えの先端に止水面戸を取り付けた。
4. 軒先の落とし口は、折板の底幅より小さく穿孔し、テーパー付きポンチで押し広げ、10 mmの尾垂れを付けた。

[No. 34] 特定天井に該当しない軽量鉄骨天井下地工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 下地張りがなく、野縁が壁に突付けとなる場所に天井目地を設けるため、厚さ0.5 mmのコ形の垂鉛めっき鋼板を野縁端部の小口に差し込んだ。
2. 屋内の天井のふところが1,500 mm以上ある吊りボルトは、縦横方向に間隔3.6 mで補強用部材を配置して水平補強した。
3. 吊りボルトの間隔が900 mmを超えたため、その吊りボルトの間に水平つなぎ材を架構し、中間から吊りボルトを下げる2段吊りとした。
4. 下地張りのある天井仕上げの野縁は、ダブル野縁を1,800 mm程度の間隔とし、その間に4本のシングル野縁を間隔を揃えて配置した。

[No. 35] 内壁コンクリート下地のセメントモルタル塗りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 中塗りや上塗りの塗厚を均一にするため、下塗りの後に、むら直しを行った。
2. モルタルの塗厚は、下塗りから上塗りまでの合計で30 mmとした。
3. 下地処理をポリマーセメントペースト塗りとしたため、乾燥しないうちに下塗りを行った。
4. 下塗り用モルタルの調合は、容積比でセメント1：砂2.5とした。

[No. 36] 塗装工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 屋外の木質系素地面の木材保護塗料塗りににおいて、原液を水で希釈し、よく攪拌して使用した。
2. 垂鉛めっき鋼面の常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りににおいて、下塗りに変性エポキシ樹脂プライマーを使用した。
3. コンクリート面のアクリル樹脂系非水分散形塗料塗りににおいて、下塗り、中塗り、上塗りとともに同一材料を使用し、塗付け量はそれぞれ0.10 kg/m²とした。
4. せっこうボード面の合成樹脂エマルジョンペイント塗りににおいて、気温が20℃であったため、中塗り後3時間経過してから、次の工程に入った。

[No. 37] ビニル床シート張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 床シートの張付けは、気泡が残らないよう空気を押し出し、その後 45 kg ローラーで圧着した。
2. 床シートの張付けは、下地に接着剤を塗布した後、オープンタイムをとってから張り付けた。
3. 防湿層のない土間コンクリートへの床シートの張付けには、ゴム系溶剤形の接着剤を使用した。
4. 熱溶接工法において、溶接作業は、床シートを張り付けた後、12 時間以上経過してから行った。

[No. 38] 鉄筋コンクリート造の断熱工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 硬質ウレタンフォーム吹付け工法において、ウレタンフォームが厚く付きすぎて表面仕上げ上支障となるところは、カッターナイフで除去した。
2. 硬質ウレタンフォーム吹付け工法において、ウレタンフォームは自己接着性に乏しいため、吹き付ける前にコンクリート面に接着剤を塗布した。
3. 押出法ポリスチレンフォーム張付け工法において、セメント系下地調整塗材を用いて隙間ができないようにしてから、断熱材を全面接着で張り付けた。
4. 押出法ポリスチレンフォーム打込み工法において、窓枠回りの施工が困難な部分には、現場発泡の硬質ウレタンフォームを吹き付けた。

[No. 39] ALC パネル工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. パネルの取扱い時に欠けが生じたが、構造耐力上は支障がなかったため、製造業者が指定する補修モルタルで補修して使用した。
2. 外壁パネルと間仕切パネルの取合い部には、幅が 10 ～ 20 mm の伸縮目地を設けた。
3. 外壁の縦壁ロッキング構法の横目地は伸縮目地とし、目地幅は 15 mm とした。
4. 耐火性能が要求される伸縮目地には、モルタルを充填した。

※ 問題番号[No. 40]～[No. 44]までの5問題は、全問題を解答してください。

[No. 40] 建築工事における事前調査や準備作業に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 山留め計画に当たり、設計による地盤調査は行われていたが、追加のボーリング調査を行った。
2. 地下水の排水計画に当たり、公共下水道の排水方式の調査を行った。
3. コンクリート工事計画に当たり、コンクリートポンプ車を前面道路に設置するため、道路使用許可申請書を道路管理者に提出した。
4. 鉄骨工事計画に当たり、タワークレーンによる電波障害が予想されるため、近隣に対する説明を行って了解を得た。

[No. 41] 仮設設備の計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 必要な工事用使用電力が60kWのため、低圧受電で契約する計画とした。
2. 工事用使用電力量の算出において、コンセントから使用する電動工具の同時使用係数は、1.0として計画した。
3. 作業員の洗面所の数は、作業員45名当たり3連槽式洗面台1台として計画した。
4. 仮設の給水設備において、工事事務所の使用水量は、1人1日当たり50Lを見込む計画とした。

[No. 42] 工事現場における材料の取扱いに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 既製コンクリート杭は、やむを得ず2段に積む場合、同径のものを並べ、まくら材を同一鉛直面上にして仮置きする。
2. 被覆アーク溶接棒は、吸湿しているおそれがある場合、乾燥器で乾燥してから使用する。
3. 砂付ストレッチルーフィングは、ラップ部（張付け時の重ね部分）を下に向けて縦置きにする。
4. プレキャストコンクリートの床部材を平積みで保管する場合、台木を2箇所とし、積み重ね段数は6段以下とする。

[No. 43] 労働基準監督署長への計画の届出に関する記述として、「労働安全衛生法」上、
誤っているものはどれか。

1. 高さが10m以上の桷組足場を設置するに当たり、組立てから解体までの期間が60日以上の場合、当該工事の開始の日の30日前までに、届け出なければならない。
2. 耐火建築物に吹き付けられた石綿を除去する場合、当該仕事の開始の日の14日前までに、届け出なければならない。
3. 掘削の深さが10m以上の地山の掘削の作業を労働者が立ち入って行う場合、当該仕事の開始の日の30日前までに、届け出なければならない。
4. 高さが31mを超える建築物を解体する場合、当該仕事の開始の日の14日前までに、届け出なければならない。

[No. 44] 工程計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. マイルストーンは、工事の進捗を表す主要な日程上の区切りを示す指標で、掘削完了日、鉄骨建方開始日、外部足場解体日等が用いられる。
2. 工程短縮を図るために行う工区の分割は、各工区の作業数量がほぼ均等になるように計画する。
3. 全体工期に制約がある場合、積上方式（順行型）を用いて工程表を作成する。
4. 工程計画では、各作業の手順計画を立て、次に日程計画を決定する。

受 検 番 号	氏 名

1 建一(後)

令和 3 年度

1 級建築施工管理技術検定

第一次検定問題（午後の部）

令和 3 年 6 月 13 日(日)

[注 意 事 項]

- ページ数は、表紙を入れて 14 ページです。
- 試験時間は、14 時 15 分から 16 時 15 分です。
- 問題の解答の仕方は、次によってください。
 - [No. 45]～[No. 54]までの 10 問題は、全問題を解答してください。
 - [No. 55]～[No. 60]までの 6 問題は、全問題を解答してください。
 - [No. 61]～[No. 72]までの 12 問題のうちから、8 問題を選択し、解答してください。
- 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
- 問題番号[No. 45]～[No. 54]、[No. 61]～[No. 72]は、四肢一択です。
正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
- 問題番号[No. 55]～[No. 60]は、施工管理法の応用能力問題で五肢二択です。
正解と思う肢の番号を 2 つ選んでください。
なお、選んだ肢の番号が 2 つとも正しい場合のみ正答となります。
- 解答の記入にあたっては、次によってください。
 - 解答は、別の解答用紙に、[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。
 - 解答は、選んだ番号を右のマーク例に従って塗りつぶしてください。
 - マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
- 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
- この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
- 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
- この問題用紙は、午後の部の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。
途中退席する場合は、持ち帰りできません。

マークの塗りつぶし例 ●

※ 問題番号[No. 45]～[No. 54]までの10問題は、全問題を解答してください。

[No. 45] 一般的な事務所ビルの新築工事における鉄骨工事の工程計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. タワークレーンによる鉄骨建方の取付け歩掛りは、1台1日当たり80ピースとして計画した。
2. 建方工程の算定において、建方用機械の鉄骨建方作業の稼働時間を1台1日当たり5時間30分として計画した。
3. トルシア形高力ボルトの締付け作業能率は、1人1日当たり200本として計画した。
4. 鉄骨のガスシールドアーク溶接による現場溶接の作業能率は、1人1日当たり6mm換算で80mとして計画した。

[No. 46] ネットワーク工程表におけるフロートに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. クリティカルパス（CP）以外の作業でも、フロートを使い切ってしまうとクリティカルパス（CP）になる。
2. ディペンデントフロート（DF）は、最遅結合点時刻（LT）からフリーフロート（FF）を減じて得られる。
3. 作業の始点から完了日までの各イベントの作業日数を加えていき、複数経路日数のうち、作業の完了を待つことになる最も遅い日数が最早開始時刻（EST）となる。
4. 最遅完了時刻（LFT）を計算した時点で、最早開始時刻（EST）と最遅完了時刻（LFT）が同じ日数の場合、余裕のない経路であるため、クリティカルパス（CP）となる。

[No. 47] 建築施工における品質管理に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリート工事において、コンクリート部材の設計図書に示された位置に対する各部材の位置の許容差は、 ± 20 mmとした。
2. コンクリートの受入検査において、目標スランプフローが60 cmの高流動コンクリートの荷卸し地点におけるスランプフローの許容差は、 ± 7.5 cmとした。
3. 鉄骨工事において、スタッド溶接後のスタッドの傾きの管理許容差は、 3° 以内とした。
4. 鉄骨梁の製品検査において、梁の長さの管理許容差は、 ± 7.5 mmとした。

[No. 48] 品質管理に用いる図表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ヒストグラムは、観測値若しくは統計量を時間順又はサンプル番号順に表し、工程が管理状態にあるかどうかを評価するために用いられる。
2. 特性要因図は、特定の結果と原因系の関係を系統的に表し、重要と思われる原因への対策の手を打っていくために用いられる。
3. 散布図は、対応する2つの特性を横軸と縦軸にとり、観測値を打点して作るグラフ表示で、主に2つの変数間の相関関係を調べるために用いられる。
4. パレート図は、項目別に層別して、出現度数の大きさの順に並べるとともに、累積和を示した図である。

[No. 49] 品質管理における検査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 購入検査は、提出された検査ロットを購入してよいかどうかを判定するために行う検査で、品物を外部から購入する場合に適用する。
2. 巡回検査は、検査を行う時点を指定せず、検査員が随時、工程をパトロールしながら検査を行うことができる場合に適用する。
3. 無試験検査は、工程が安定状態にあり、品質状況が定期的に確認でき、そのまま次工程に流しても損失は問題にならない場合に適用する。
4. 抜取検査は、継続的に不良率が大きく、決められた品質水準に修正しなければならない場合に適用する。

[No. 50] 市街地の建築工事における災害防止対策に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 外部足場に設置した工事用シートは、シート周囲を35 cmの間隔で、隙間やたるみが生じないように緊結した。
2. 歩行者が多い箇所であったため、歩行者が安全に通行できるよう、車道とは別に幅1.5 mの歩行者用通路を確保した。
3. 防護棚は、外部足場の外側からのはね出し長さを水平距離で2 mとし、水平面となす角度を15°とした。
4. 飛来落下災害防止のため、鉄骨躯体の外側に設置する垂直ネットは、日本産業規格(JIS)に適した網目寸法15 mmのものをを使用した。

[No. 51] 作業主任者の選任に関する記述として、「労働安全衛生法」上、誤っているものはどれか。

1. 掘削面からの高さが2mの地山の掘削作業において、地山の掘削作業主任者を選任しなかった。
2. 高さが3mの型枠支保工の解体作業において、型枠支保工の組立て等作業主任者を選任した。
3. 高さが4mの移動式足場の組立て作業において、足場の組立て等作業主任者を選任しなかった。
4. 高さが5mのコンクリート造工作物の解体作業において、コンクリート造の工作物の解体等作業主任者を選任した。

[No. 52] 足場に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 移動はしごは、丈夫な構造とし、幅は30cm以上とする。
2. 枠組足場の使用高さは、通常使用の場合、45m以下とする。
3. 作業床は、つり足場の場合を除き、床材間の隙間は3cm以下、床材と建地の隙間は12cm未満とする。
4. 登り桟橋の高さが15mの場合、高さの半分の位置に1箇所踊場を設ける。

[No. 53] 労働災害を防止するため、特定元方事業者が講ずべき措置として、「労働安全衛生規則」上、定められていないものはどれか。

1. 特定元方事業者と関係請負人との間及び関係請負人相互間における、作業間の連絡及び調整を随時行うこと。
2. 仕事の工程に関する計画及び作業場所における主要な機械、設備等の配置に関する計画を作成すること。
3. 関係請負人が雇い入れた労働者に対し、安全衛生教育を行うための場所を提供すること。
4. 特定元方事業者及び特定の関係請負人が参加する協議組織を設置し、会議を随時開催すること。

[No. 54] クレーンに関する記述として、「クレーン等安全規則」上、誤っているものはどれか。

1. つり上げ荷重が3t以上のクレーンの落成検査における荷重試験は、クレーンの定格荷重に相当する荷重の荷をつって行った。
2. つり上げ荷重が0.5t以上5t未満のクレーンの運転の業務に労働者を就かせるため、当該業務に関する安全のための特別の教育を行った。
3. つり上げ荷重が0.5t以上のクレーンの玉掛け用具として使用するワイヤロープは、安全係数が6以上のものを使用した。
4. つり上げ荷重が1t以上のクレーンの玉掛けの業務は、玉掛け技能講習を修了した者が行った。

※ 問題番号 [No. 55] ~ [No. 60] までの 6 問題は応用能力問題です。全問題を解答してください。

[No. 55] 異形鉄筋の継手及び定着に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

ただし、d は、異形鉄筋の呼び名の数値とする。

1. 壁縦筋の配筋間隔が上下階で異なるため、重ね継手は鉄筋を折り曲げずにあき重ね継手とした。
2. 180° フック付き重ね継手としたため、重ね継手の長さはフックの折曲げ開始点間の距離とした。
3. 梁主筋を柱にフック付き定着としたため、定着長さは鉄筋末端のフックの全長を含めた長さとした。
4. 梁の主筋を重ね継手としたため、隣り合う鉄筋の継手中心位置は、重ね継手長さの 1.0 倍ずらした。
5. 一般階における四辺固定スラブの下端筋を直線定着としたため、直線定着長さは、10d 以上、かつ、150 mm 以上とした。

[No. 56] 型枠支保工に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. パイプサポート以外の鋼管を支柱として用いる場合、高さ 2.5 m 以内ごとに水平つなぎを2方向に設けなければならない。
2. 支柱として用いる鋼管枠は、最上層及び5層以内ごとに水平つなぎを設けなければならない。
3. パイプサポートを2本継いで支柱として用いる場合、継手部は4本以上のボルト又は専用の金具を用いて固定しなければならない。
4. 支柱として用いる組立て鋼柱の高さが5 m を超える場合、高さ 5 m 以内ごとに水平つなぎを2方向に設けなければならない。
5. 支柱として用いる鋼材の許容曲げ応力の値は、その鋼材の降伏強さの値又は引張強さの値の $\frac{3}{4}$ の値のうち、いずれか小さい値の $\frac{2}{3}$ の値以下としなければならない。

[No. 57] 鉄筋コンクリート造の耐震改修における柱補強工事に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. RC 巻き立て補強の溶接閉鎖フープ巻き工法において、フープ筋の継手はフレア溶接とした。
2. RC 巻き立て補強の溶接金網巻き工法において、溶接金網相互の接合は重ね継手とした。
3. 連続繊維補強工法において、躯体表面を平滑にするための下地処理を行い、隅角部は直角のままとした。
4. 鋼板巻き工法において、工場で加工した鋼板を現場で突合せ溶接により一体化した。
5. 鋼板巻き工法において、鋼板と既存柱の隙間に硬練りモルタルを手作業で充填した。

[No. 58] 屋根保護アスファルト防水工事に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. コンクリート下地のアスファルトプライマーの使用量は、 0.2 kg/m^2 とした。
2. 出隅及び入隅は、平場部のルーフィング類の張付けに先立ち、幅 150 mm のストレッチルーフィングを増張りした。
3. 立上り部のアスファルトルーフィング類を張り付けた後、平場部のルーフィング類を 150 mm 張り重ねた。
4. 保護コンクリート内の溶接金網は、線径 6.0 mm、網目寸法 100 mm のものを敷設した。
5. 保護コンクリートの伸縮調整目地は、パラペット周辺などの立上り際より 600 mm 離れた位置から割り付けた。

[No. 59] 鋼製建具工事に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 内部建具の両面フラッシュ戸の見込み部は、上下部を除いた2方を表面板で包んだ。
2. 外部建具の両面フラッシュ戸の表面板は、厚さを 0.6 mm とした。
3. 両面フラッシュ戸の組立てにおいて、中骨は厚さを 1.6 mm とし、間隔を 300 mm とした。
4. ステンレス鋼板製のくつずりは、表面仕上げをヘアラインとし、厚さを 1.5 mm とした。
5. 枠及び戸の取付け精度は、ねじれ、反り、はらみともそれぞれ許容差を、4 mm 以内とした。

[No. 60] 内装改修工事における既存床仕上げ材の撤去及び下地処理に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

ただし、除去する資材は、アスベストを含まないものとする。

1. ビニル床シートは、ダイヤモンドカッターで切断し、スクレーパーを用いて撤去した。
2. 磁器質床タイルは、目地をダイヤモンドカッターで縁切りし、電動研り器具を用いて撤去した。
3. モルタル塗り下地面の既存合成樹脂塗床材の撤去は、下地モルタルを残し、電動研り器具を用いて下地モルタルの表面から塗床材のみを削り取った。
4. 既存合成樹脂塗床面の上に同じ塗床材を塗り重ねるため、接着性を高めるよう、既存仕上げ材の表面を目荒しした。
5. 新規仕上げが合成樹脂塗床のため、既存床材撤去後の下地コンクリート面の凹凸部は、エポキシ樹脂モルタルで補修した。

※ 問題番号[No. 61]～[No. 72]までの12問題のうちから、8問題を選択し、解答してください。

[No. 61] 用語の定義に関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 事務所の用途に供する建築物は、特殊建築物である。
2. 観覧のための工作物は、建築物である。
3. 高架の工作物内に設ける店舗は、建築物である。
4. 共同住宅の用途に供する建築物は、特殊建築物である。

[No. 62] 次の記述のうち、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 建築物の容積率の算定において、自動車庫の面積は、敷地内の建築物の各階の床面積の合計の $\frac{1}{5}$ までは算入しないことができる。
2. 建築主は、軒の高さが9mを超える木造の建築物を新築する場合には、二級建築士である工事監理者を定めなければならない。
3. 建築基準法の規定は、条例の定めるところにより現状変更の規制及び保存のための措置が講じられている建築物であって、特定行政庁が建築審査会の同意を得て指定したものに適用されない。
4. 建築基準法又はこれに基づく命令若しくは条例の規定の施行又は適用の際現に存する建築物が、規定の改正等によりこれらの規定に適合しなくなった場合、これらの規定は当該建築物に適用されない。

[No. 63] 防火区画に関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 主要構造部を準耐火構造とした階数が3以下で、延べ面積200m²以内の一戸建住宅の階段は、竪穴部分とその他の部分について、準耐火構造の床若しくは壁又は防火設備で区画しなくてもよい。
2. 政令で定める窓その他の開口部を有しない事務所の事務室は、その事務室を区画する主要構造部を準耐火構造とし、又は不燃材料で造らなければならない。
3. 建築物の11階以上の部分で、各階の床面積の合計が100m²を超えるものは、原則として床面積の合計100m²以内ごとに耐火構造の床若しくは壁又は防火設備で区画しなければならない。
4. 共同住宅の各戸の界壁を給水管が貫通する場合には、当該管と界壁との隙間をモルタルその他の不燃材料で埋めなければならない。

[No. 64] 建設業の許可に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 建設業の許可は、一般建設業と特定建設業の区分により、建設工事の種類ごとに受ける。
2. 建設業者は、許可を受けた建設業に係る建設工事を請け負う場合においては、当該建設工事に附帯する他の建設業に係る建設工事を請け負うことができる。
3. 建設業の許可を受けた建設業者は、許可を受けてから3年以内に営業を開始せず、又は引き続いて1年以上営業を休止した場合、当該許可を取り消される。
4. 特定建設業の許可を受けようとする者は、発注者との間の請負契約で、その請負代金の額が8,000万円以上であるものを履行するに足る財産的基礎を有していなければならない。

[No. 65] 建設工事の請負契約に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 建設工事の請負契約書には、契約に関する紛争の解決方法に該当する事項を記載しなければならない。
2. 建設業者は、建設工事の注文者から請求があったときは、請負契約が成立するまでの間に、建設工事の見積書を交付しなければならない。
3. 請負人は、建設工事の施工について工事監理を行う建築士から工事を設計図書のとおりを実施するよう求められた場合において、これに従わない理由があるときは、直ちに、注文者に対して、その理由を報告しなければならない。
4. 注文者は、工事現場に監督員を置く場合においては、当該監督員の権限に関する事項及びその行為についての請負人の注文者に対する意見の申出の方法を、書面により請負人の承諾を得なければならない。

[No. 66] 元請負人の義務に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 元請負人は、前払金の支払を受けたときは、下請負人に対して、資材の購入、労働者の募集その他建設工事の着手に必要な費用を前払金として支払うよう適切な配慮をしなければならない。
2. 元請負人は、請負代金の出来形部分に対する支払を受けたときは、当該支払の対象となった建設工事を施工した下請負人に対して出来形部分に相応する下請代金を、当該支払を受けた日から50日以内で、かつ、できる限り短い期間内に支払わなければならない。
3. 特定建設業者は、発注者から直接建築一式工事を請け負った場合において、下請契約の請負代金の総額が6,000万円以上になるときは、施工体制台帳を工事現場ごとに備え置き、発注者の閲覧に供しなければならない。
4. 特定建設業者が注文者となった下請契約において、下請代金の支払期日が定められなかったときは、下請負人が完成した工事目的物の引渡しを申し出た日を支払期日としなければならない。

[No. 67] 次の記述のうち、「労働基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 満18才に満たない者を、足場の組立、解体又は変更の業務のうち地上又は床上における補助作業の業務に就かせてはならない。
2. 満18才に満たない者を、高さが5m以上の場所で、墜落により危害を受けるおそれのあるところにおける業務に就かせてはならない。
3. 満18才に満たない者を、原則として午後10時から午前5時までの間において使用してはならない。
4. 満18才に満たない者を、単独で行うクレーンの玉掛けの業務に就かせてはならない。

[No. 68] 建設業の事業場における安全衛生管理体制に関する記述として、「労働安全衛生法」上、誤っているものはどれか。

1. 事業者は、常時10人の労働者を使用する事業場では、安全衛生推進者を選任しなければならない。
2. 事業者は、常時30人の労働者を使用する事業場では、衛生管理者を選任しなければならない。
3. 事業者は、常時50人の労働者を使用する事業場では、産業医を選任しなければならない。
4. 事業者は、常時100人の労働者を使用する事業場では、総括安全衛生管理者を選任しなければならない。

[No. 69] 建設現場における次の業務のうち、「労働安全衛生法」上、都道府県労働局長の当該業務に係る免許を必要とするものはどれか。

1. 最大積載量が1t以上の不整地運搬車の運転の業務
2. 動力を用い、かつ、不特定の場所に自走することができる機体重量が3t以上のくい打機の運転の業務
3. 作業床の高さが10m以上の高所作業車の運転の業務
4. つり上げ荷重が5t以上の移動式クレーンの運転の業務

[No. 70] 次の記述のうち、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」上、誤っているものはどれか。
ただし、特別管理産業廃棄物を除くものとする。

1. 産業廃棄物の運搬又は収集を行う車両は、産業廃棄物運搬車である旨の事項を表示し、かつ、当該運搬車に環境省令で定める書面を備え付けておかなければならない。
2. 事業者は、産業廃棄物の運搬又は処分を委託した際に産業廃棄物管理票を交付した場合、管理票の写しを、交付した日から5年間保存しなければならない。
3. 事業者は、工事に伴って発生した産業廃棄物を自ら運搬する場合、管轄する都道府県知事の許可を受けなければならない。
4. 汚泥の処理能力が1日当たり10m³を超える乾燥処理施設（天日乾燥施設を除く。）を設置する場合、管轄する都道府県知事の許可を受けなければならない。

[No. 71] 宅地以外の土地を宅地にするため、土地の形質の変更を行う場合、「宅地造成等規制法」上、宅地造成に該当しないものはどれか。

1. 切土をする土地の面積が300m²であって、切土をした土地の部分に高さが1.5mの崖を生ずるもの
2. 盛土をする土地の面積が400m²であって、盛土をした土地の部分に高さが2mの崖を生ずるもの
3. 切土と盛土を同時にする土地の面積が500m²であって、盛土をした土地の部分に高さが1mの崖を生じ、かつ、切土及び盛土をした土地の部分に高さが2.5mの崖を生ずるもの
4. 盛土をする土地の面積が600m²であって、盛土をした土地の部分に高さが1mの崖を生ずるもの

[No. 72] 「^{しんどう き せいほう}振動規制法」^{じょう}上，^{してい ち いきない}指定地域内における^{とくていけんせつ さ ぎょう かん き じゆつ}特定建設作業に関する記述として，^{あやま}誤っているものはどれか。

ただし，^{さいがい}災害その他^{た ひ じょう じ とう のぞ}非常時等を除くものとする。

1. ^{とくていけんせつ さ ぎょう しんどう}特定建設作業の振動が，^{とうがいとくていけんせつ さ ぎょう ばしょ}当該特定建設作業の場所において，^{と しょかん とくべつよう こうろじん}図書館，特別養護老人ホーム等の敷地の^{とう しき ち しゅう い}周囲^{た ひ じょう じ とう のぞ}おおむね80 mの^{く いきない}区域内として^{してい}指定された^{く いき}区域^{にち じ}にあつては，1日10時間を超えて^{かん こ おこな}行われる^{とくていけんせつ さ ぎょう}特定建設作業に伴って^{はっせい}発生するものでないこと。
2. ^{とくていけんせつ さ ぎょう しんどう}特定建設作業の振動が，^{とくていけんせつ さ ぎょう ばしょ しき ち きょうかいせん}特定建設作業の場所の敷地の境界線において，85 dBを超え^{おお}る^{おお}大きさのものでないこと。
3. ^{とくていけんせつ さ ぎょう しんどう}特定建設作業の振動が，^{とくていけんせつ さ ぎょう ぜん ぶ また いち ぶ かか さ ぎょう き かん}特定建設作業の全部又は一部に係る^{とうがいとくていけん}作業の期間が当該^{せつ さ ぎょう ばしょ}特定建設作業の場所において，^{れんぞく にち こ おこな}連続して6日を超えて^{とくていけんせつ さ ぎょう}行われる^{ともな はっせい}特定建設作業に伴って^{はっせい}発生するものでないこと。
4. ^{とくていけんせつ さ ぎょう しんどう}特定建設作業の振動が，^{りょうこう じゅうきょ かんきょう ほ ぜん}良好な住居の環境を保全するため，^{とく せいおん ほ じ ひつよう}特に静穏の保持を必要とする^{く いき}区域として^{してい}指定された^{く いき}区域^{ご こ じ}にあつては，午後7時から^{よくじつ}翌日の午前7時までの^{ご ぜん じ}時間^{じ かん}において^{おこな}行われる^{とくていけんせつ さ ぎょう}特定建設作業に伴って^{ともな はっせい}発生するものでないこと。

令和3年度 1級建築施工管理技術検定第一次検定 正答肢

(午前の部)

問題No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正答肢	3	3	3	1	2	2	1	2	2	2
問題No.	11	12	13	14	15	1 5 問題のうち 1 2 問題を選択し解答				
正答肢	3	2	1	4	3					

問題No.	16	17	18	19	20	5 問題を全問解答				
正答肢	4	3	3	4	2					

問題No.	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正答肢	4	2	1	1	4	3	4	4	2	4
1 0 問題のうち 7 問題を選択し解答										

問題No.	31	32	33	34	35	36	37	38	39
正答肢	4	3	3	2	2	1	3	2	4
9 問題のうち 7 問題を選択し解答									

問題No.	40	41	42	43	44	5 問題を全問解答				
正答肢	3	1	3	3	3					

(午後の部)

問題No.	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
正答肢	1	2	4	1	4	3	1	4	4	1
1 0 問題を全問解答										

問題No.	55	56	57	58	59	60	【応用能力問題】 6 問題を全問解答			
正答肢	3, 4	1, 4	3, 5	2, 3	2, 5	1, 3				

問題No.	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
正答肢	1	2	2	3	4	2	1	2	4	3
問題No.	71	72	1 2 問題のうち 8 問題を選択し解答							
正答肢	1	2								

配点：72 問出題し、そのうち 60 問解答を要する試験であり、各問題 1 点、60 点満点です。
 応用能力問題は、選んだ肢の番号が 2 つとも正しい場合のみ正答となります。